

伊賀流自治の視点

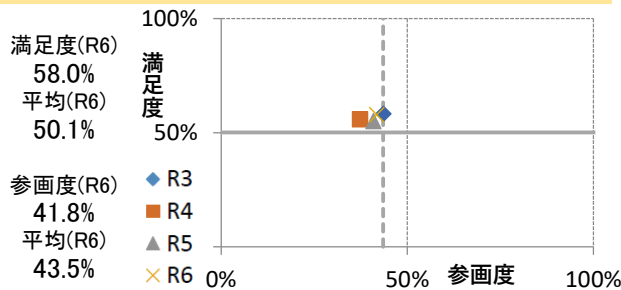
【主担当部局】

地域連携部

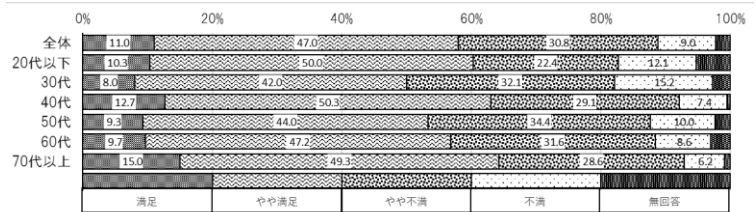
- ・住民自治協議会が自主自立した地域づくりを行うため、地域の課題解決や情勢の変化に迅速に対応したサポートを行います。
- ・市民公益活動団体等の、安定的、持続的な活動を支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	住民自治 住民自治協議会に対し、住民自治に関する研修会や勉強会を開催し、住民自治活動の活性化を図り活動への参画を促進するとともに、住民自治活動の拠点となる地区市民センターの指定管理者制度の導入をめざします。 また、持続可能な地域づくりに向けて、地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金などの財政支援を行うとともに、地域担当職員や市民活動支援センターでの相談体制を充実させることにより、住民自治活動を支援します。	○住民自治協議会推進経費 ・地域まちづくり計画の進行管理 ・地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金等による財政支援 ○自治振興経費 ・地区公民館建設費補助事業 ・コミュニティ助成事業 ○地区市民センター維持管理経費 ・地区市民センター運営管理 ・指定管理者制度導入支援 ○地区市民センター施設改修事業 ・第2期実行計画に基づく整備 ・第3期実行計画の策定	成果指標	キラッと輝け！地域応援補助金 申請件数					
			成果指標の説明	令和元年度の申請件数を起算値として、団体からの補助金申請件数の累計値					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	11	42	61	77	98	81
2	市民活動 市民活動支援センターにおいて、市民活動団体の活動内容などの情報を積極的に発信することで、市民活動に対する市民の関心を高め、自主的なまちづくり活動への参加を推進します。また、各種研修会の開催や市民活動支援員による相談体制の充実を図り、市民活動団体の活性化を促進します。 市民の自主的なまちづくり活動を支援し、個性的で魅力あふれる地域づくりを推進するため、地域活動支援事業を実施し、市民活動団体の継続的な活動をサポートします。	○ゆめぼりすセンター維持管理経費 ・ゆめぼりすセンター運営管理 ・市民活動支援センター運営管理 ○地域活動支援事業 ・地域活動支援事業補助事業 ・N-1グランプリ開催事業	成果指標	市民活動支援センター 利用件数					
			成果指標の説明	市民活動相談件数、情報交流スペース利用件数、印刷機利用件数の合計件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	1,307	950	1,257	1,305	1,441	1,372
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

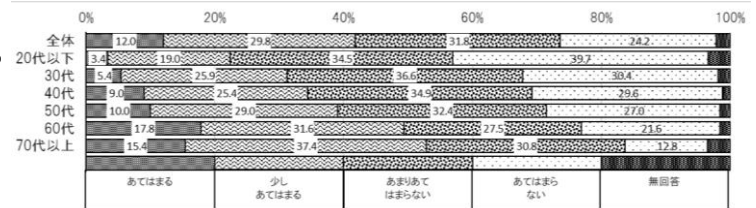
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



傾向

参画度は平均をやや下回っているが、満足度は平均を大きく上回っている。参画度・満足度ともに過去3年間で上昇している。60代、70代以上の参画度が高い。20代以下、40代、70代以上の満足度が高い。

【CHECK②】

効果検証			【事業の進捗】取り組み状況
			【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	・住民自治協議会に対する研修会の開催や地域担当職員を中心とした伴走支援により、各地域における地域まちづくり計画の見直しに向けた動きに繋がっている。 ・地区市民センターの指定管理者制度の導入について、地域への説明会等の実施により、令和7年度より新たに8地域の導入につながった。	計画通り進めている ・人口減少や少子高齢化など社会情勢の変化により、活動の担い手不足や役員の高齢化など、住民自治を取り巻く状況は大きく変化してきている。このため、(仮称)住民自治のあり方検討委員会を立ち上げ、伊賀市発足から20年間の住民自治に関する検証を行うとともに、これからの持続可能な住民自治のあり方等について、今後2年間をかけて検討を行っていく。
	課題	・住民自治協議会をはじめとする地域活動の担い手不足等により活動の停滞が危惧されている。	
2	効果が出ている点	・N-1グランプリの開催や、ブログやSNSなどを通じて市民活動に関する情報を積極的に発信することで、市民活動支援センターにおける相談件数が増加している。	計画通り進めている ・新たに定住自立圏域に加わった名張市を含め、N-1グランプリを開催することにより、市民に対する市民活動の関心を高めるとともに、圏域内における団体同士の交流を図ることにより、市民活動団体の活性化につなげていく。更に、若年層世代に市民活動が浸透するよう情報発信の強化を行う。
	課題	・令和6年度に実施した市民活動団体に対するアンケート調査では、活動団体の平均年齢が60歳以上と答えた割合が7割以上となっており、活動団体の高齢化が顕著となっている。	
3			
4			

伊賀流自治の視点

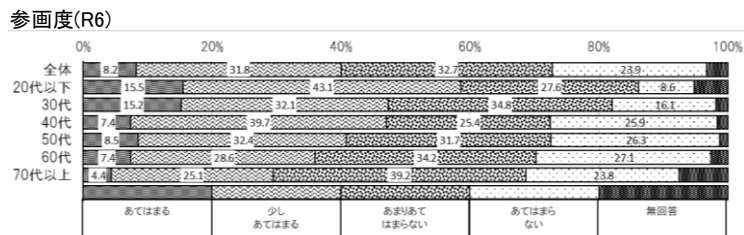
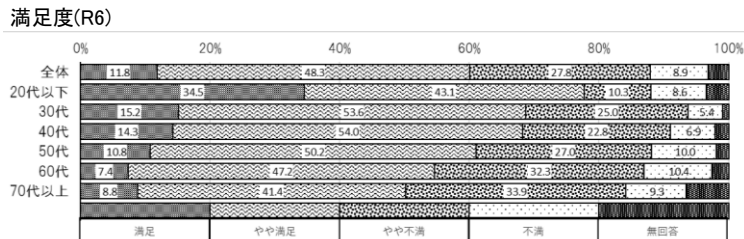
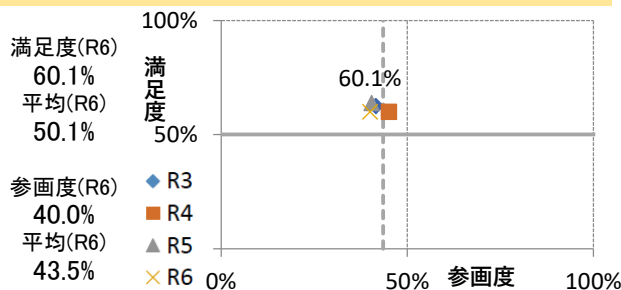
【主担当部局】

人権生活環境部

- ・多言語だけでなく「やさしい日本語」での対応を広めるとともに、外国人住民の生活をサポートする機能を充実させるなど、必要な情報を提供できる体制を構築します。
- ・外国人住民に自治会への加入を促し、地域コミュニティの一員として社会参画できるまちづくりを支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	多文化交流 多文化共生社会の実現に向け、(仮称)伊賀市多文化共生指針に基づき、伊賀市国際交流協会やNPO等と連携し、多文化理解を深めるための講座やイベント等を実施します。また、多文化共生社会を推進するサポーターを養成し、地域や学校等での多文化交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・外国人とのコミュニケーション方法や文化などを紹介する多文化共生理解事業を行った。 ・出前講座を市内小学校・地域等で実施した。 ・交流事業を国際交流協会へ委託し実施した。 ・漢字教室や学習支援教室のボランティア養成講座を行った。 ・「やさしい日本語」について、広報やケーブルテレビ等で市民周知するとともに、研修会を実施した。	成果指標	日本人との交流がある外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「市内に住む日本人とどのような付き合いがありますか」の設問において、「日常生活の話(世間話)をする」「困ったときに助け合っている」「家族同様に親しく付き合っている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	22.8	56	56.3	59.1	63.4	30.0
2	外国人住民への支援 伊賀市多文化共生センターにおいて、多言語での相談や生活支援を行うほか、必要な情報を集約し、発信するなど外国人住民への支援の充実を図ります。また、多文化共生にかかる日本人の相談窓口としての機能を充実させ、人や文化の交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・伊賀市多文化共生センターなどにおいて、他部局と連携し、一元的相談窓口で相談事業を行った。(多文化共生通訳相談員7人・5言語) ・各種情報をSNSや情報誌などを作成し多言語で発信した。 ・テレビ通訳、AI翻訳サービスで11言語以上対応できる業務を委託した。 ・「伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブック(6言語)」を作成した。	成果指標	伊賀市に住んでよかったと感じている外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「伊賀市に住んでよかったと感じていますか」の設問において、「とても感じている」または「だいたい感じている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	79.8	92	82.5	79.8	67.8	84.0
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



- 傾向
- ①満足度は平均より高いが、参画度は平均より低い。
 - ②満足度は、前年度より約4ポイント下がった。参画度は、令和4年度と比べて5ポイント下がっている。
 - ③20代以下の満足度が高い。参画度は、年代が上がるほど低い傾向にある。

【CHECK②】			【事業の進捗】取り組み状況	
効果検証			【ACTION】事務事業の改善案	
1	効果が出ている点	・地域などから外国人に向けた案内や通知等の翻訳や出前講座の依頼が増え、外国人住民を受け入れ共生していこうとする動きがみられる。(R6年度翻訳実績:10地区5言語14件) ・市内の学校において、多文化理解出前講座や小学生による社会見学などの機会を持ち、多文化共生の理解を深めている。	計画通り進めている ・外国人住民を対象にしたアンケートのほか、地域や企業等の実態把握に努める。 ・伊賀市版外国人のための生活ガイドブック(5言語・やさしい日本語)を作成・配布し、地域などで活用できるよう啓発に取り組む。 ・「やさしい日本語」の研修および普及に取り組む。 ・外国人との交流事業を実施する。	
	課題	・日本人住民と外国人住民との間で、言語や文化の違いによるコミュニケーションの難しさや日常生活での情報取得が困難な状況であることを踏まえ、多言語対応窓口や外国人住民が必要とする情報を得やすくする取り組みを充実させるほか、地域住民と外国人住民との交流事業を展開する必要がある。		
2	効果が出ている点	・多文化共生相談員の設置やタブレット端末による映像通訳等を活用要することにより、相談や翻訳業務が円滑に行われている。 ・自治会などの地域住民の相談対応を行い、地域での多文化共生を推進に繋がっている。	計画通り進めている ・多文化共生センターのホームページをリニューアルし、情報発信を充実する。 ・外国人住民へのアンケート調査を継続的に実施し、ニーズや困りごとなどの状況を把握する。 ・多言語通訳相談員やタブレット、AI翻訳などを活用するとともに、関係機関や庁内各課との連携を図り窓口対応を充実する。	
	課題	・外国人の定住化が進むことにより、外国人住民の高齢化や子どもが増加し、相談がより多様化・複雑化していることから、多種多様な相談に対応できる体制を整備する必要がある。 ・外国人住民と日本人住民がともに安心して生活できる地域づくりを進めるため、現状を把握した上で施策を展開する必要がある。		
3				
4				

伊賀流自治の視点

【主担当部局】

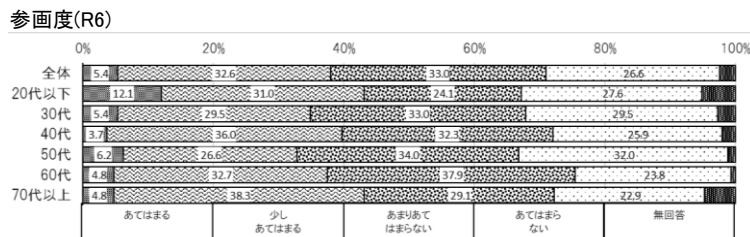
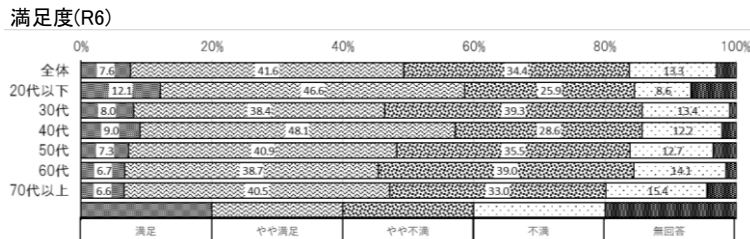
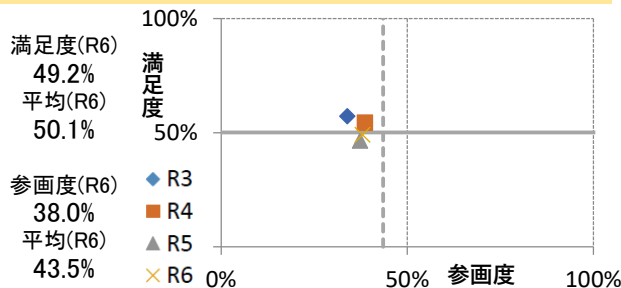
地域力創造部

・市民誰もが暮らしの中で文化・芸術に触れることにより豊かな感性と創造力を育むことができるよう、機会の提供と充実に努めます。

・市民の文化・芸術意識の向上を図り、情報発信や人材育成等に取り組むことで、さまざまな文化・芸術の継承・創造を促し、まちづくりや産業に活かします。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化・芸術振興 文化振興ビジョン及び文化振興条例を踏まえた文化振興プランを策定し、それに沿って文化・芸術振興の具体的な取り組みを進めることで、市民の文化・芸術意識の向上を図ります。文化振興ビジョンで、伊賀市の文化振興の中心的存在と位置付けられた(公財)伊賀市文化都市協会などと連携し、市民が芸術に触れる機会を提供します。市民、芸術団体の活動支援を行い、文化・芸術活動の担い手を育成します。	○文化振興経費 ・伊賀市文化振興プランの推進 ・上野城新能の開催 ・「市展いが」の開催 ・伊賀市民文化祭の開催 ・「雪解のつどい」など文学振興事業の実施 ・美術博物館基本構想を策定し、基本計画を検討	成果指標	市民美術展覧会 出品者数、鑑賞者数					
			成果指標の説明	市民が芸術に触れる機会の提供及び活動支援、文化芸術活動の担い手育成への取り組みの効果を測るための指標。 市民美術展覧会の一般応募者と鑑賞に訪れた人数合計					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	1,542	1,233	1,144	1,179	1,138	2,000
2	文化施設維持管理 文化・芸術活動の拠点となる伊賀市文化会館などホール施設の適切かつ効果的な管理運営を行い、施設環境の維持向上に努めます。子どもたちが次代の文化の担い手となるよう、優れた文化・芸術に触れ学ぶ機会づくりとして、ホール施設を活用した文化・芸術事業や、アウトリーチ事業を実施します。	○文化施設維持管理経費 ・伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホール、ミュージアム青山讃頌舎、岸宏子記念伊賀文学館指定管理 ○文化施設改修事業 ・文化会館舞台機構設備取替 ・文化会館リハーサルロビー空調更新工事 ・文化会館クセノンピンスポットライト交換 ・文化会館 スプリンクラー設備アラーム弁取替	成果指標	自主事業の入場者数全体に占める子どもの割合					
			成果指標の説明	伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホールで開催される自主事業や、そこを拠点としたアウトリーチ事業の参加者数全体に占める子どもの割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	20	23	40	35.2	36.0	30
3	芭蕉翁顕彰 芭蕉翁の生誕地として、芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発を行うとともに、関係団体や自治体と連携し、俳句の文化的価値を世界へ発信する取り組みを進めます。多くの人に親しまれる顕彰事業や芭蕉翁記念館の運営を行います。また、人づくり・まちづくりにつながる新芭蕉翁記念館の整備に向けた検討を進めます。	○芭蕉翁顕彰経費 ・第78回芭蕉祭の開催 ・俳句ユネスコ無形文化遺産登録に向けた活動 ○芭蕉翁関連施設維持管理運営経費 ・芭蕉翁記念館、蓑虫庵、史跡芭蕉翁生家、偲翁舎などの維持管理・運営 ・史跡芭蕉翁生家、蓑虫庵指定管理 ○芭蕉翁関連施設改修経費 ・蓑虫庵中門及び東門等改修工事	成果指標	芭蕉祭献詠俳句等応募数					
			成果指標の説明	芭蕉翁顕彰並びに芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発、発信する取り組みの効果を測るための指標。 俳句、連句、絵手紙、ポスター原画の応募数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(点)	36,829	38,713	35,785	35,371	37,091	40,000
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度・参画度が平均と比べて、ともに低い。
- ・満足度・参画度ともにR4からR5にかけて下落したが、R6はR5と比べ上昇。
- ・満足度は20代以下、40代が比較的高く、参画度は20代以下、40代、70代以上が高い。

【CHECK②】

効果検証		【事業の進捗】取り組み状況
【ACTION】事務事業の改善案		
1	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○新規事業案 ・文化振興に関わる人、情報を集約するプラットフォームを検討する。 ○既存事業案 ・伊賀市文化振興ビジョンに基づき、伊賀市文化都市協会等と連携しながら、伊賀市文化振興プランの進捗管理を行う。
2	効果が出ている点	やや遅れている
	課題	○既存事業案 ・ホール施設等を活用し、伊賀市文化都市協会と連携しながら、市民が文化に触れる機会づくりを行う。 ・伊賀市文化会館と青山ホールの適切かつ効率的な管理運営を行い、長寿命化計画に基づき計画的に改修を行いながら施設環境の維持向上を行う。 ・休館中のあやま文化センターについて、周辺施設との総合的なあり方検討を行う。 ・2024(令和6)年度に策定した「美術博物館基本構想」に基づき、市が所蔵する芭蕉翁の直筆資料や歴史文化に関連する資料などを適切に保管できる環境や体制を整えた施設の整備が必要。
3	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○既存事業案 ・芭蕉祭の実施と芭蕉翁顕彰に効果的な情報発信を行う。 ・俳聖殿前山門の茅葺屋根葺替工事を行う。 ・芭蕉翁記念館、史跡芭蕉翁生家、蓑虫庵の修繕を適宜行い、維持管理をする。 ・重要文化財である「更科紀行」等、貴重資料の保存方法について検討を行う。 ・関係団体が主催する事業の周知協力や、学芸員による出前講座などにより、俳句人口を増やす取組を継続して行う。
4	効果が出ている点	
	課題	

伊賀流自治の視点

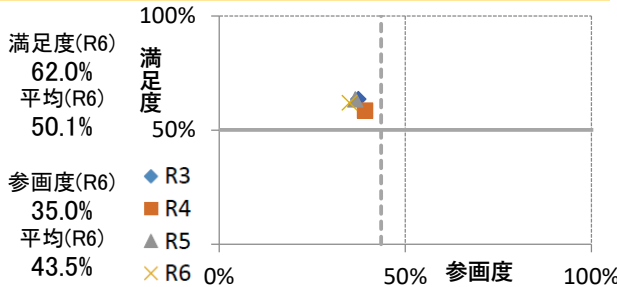
【主担当部局】

教育委員会

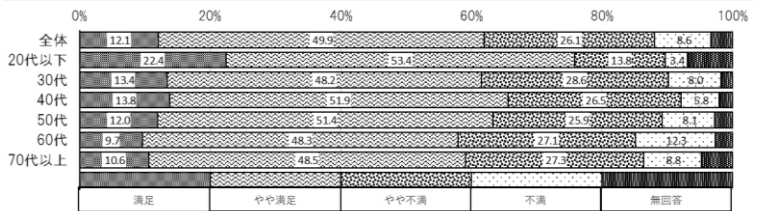
- ・貴重な歴史資料や文化財を調査・保存・管理し、それらに関する情報を発信・提供するとともに活用に努めます。
- ・豊富な文化遺産をまちづくりに活用することにより、文化財への理解や保護する心を育て、市全体の魅力発信につなげます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化財保護 市内に所在する未指定・未登録の文化財の調査・記録を促進して保存すべきものを指定・登録します。建造物などの有形文化財は、管理者と協議のもと保存・修理し、防犯・防災施設の整備に努めます。また、祭礼などの民俗文化財は、後継者の育成と道具の修理等を支援します。さらに、史跡や名勝、天然記念物は、文化財の価値をより高めるために、環境整備や適切な維持管理、周辺環境の保全に努めます。開発に伴い失われる埋蔵文化財は、発掘調査を実施し記録保存を図ります。	○文化財保存経費 ・国史跡の伊賀国庁跡・伊賀国分寺跡・御墓山古墳・上野城跡の環境整備 ・特別天然記念物オオサンショウウオの保護活動 ・文化財保護の記録「文化財年報」の発行 ○文化財保存事業 ・重文町井家・猪田神社本殿・大村神社宝殿等の防災設備保守点検事業 ・重無民上野天神祭の楼車(幕)や勝手神社神事踊の用具、県指定木造多聞天立像等の保存修理事業 ・町井家住宅や入交家住宅の保存修理事業	成果指標	指定及び登録文化財数(累計)					
			成果指標の説明	市内のさまざまな文化財を調査・研究した結果、保存・継承すべきものとして取り組んだ成果を測るための指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	500	502	503	505	509	520
2	文化財の活用 身近な歴史や文化財の成り立ちや価値を伝えるため展示施設の整備に努めるとともに、講座の開催やパンフレットの作成などを通じて普及啓発活動を行います。また、旧崇広堂などの文化財施設を積極的に活用し、地域の歴史や文化財の魅力を発信するとともに、史跡の価値や魅力をより高めるため、史跡整備の推進や維持管理に努めます。	○文化財等保存管理施設維持管理経費 ・大山田郷土資料館においてボランティア団体による特別展及び見学会開催 ○文化財施設維持管理経費 ・指定管理施設(旧崇広堂・入交家住宅・旧小田小学校本館・城之越遺跡)の活用、維持管理 ○国史跡伊賀国庁跡保存整備事業 ・保存整備事業、指導委員会の開催、講演会・展示会開催 ・文化財保存事業にともなう、個別文化財(入交家住宅、町井家住宅等)の見学会・講演会開催 ・個別文化財のパンフレットの作成	成果指標	文化財施設 入館者数					
			成果指標の説明	旧崇広堂・旧小田小学校本館・入交家住宅・城之越遺跡・大山田郷土資料館の入館・入園者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	17,108	16,787	17,486	14,830	15,262	18,000
3	歴史まちづくり 上野城下町、観音提寺と大和街道鳥ヶ原宿、大村神社と初瀬街道阿保宿の3つの重点区域において、歴史的風致形成建造物の指定や修景助成、まち巡り拠点の整備や古民家再生事業などを推進することにより、歴史的な風致の維持向上を図ります。	○歴史的風致維持向上計画進捗管理事業 ・庁内会議・協議会の開催、関連事業の進捗管理 ・重点区域の一つである阿保地区と協議し、案内看板設置 ・登録有形文化財の登録に向けて、ヘリテージマネージャーによる歴史的建造物の調査 ・中部地方の歴まち計画認定都市18市町による中部歴まちサミットin伊賀の開催	成果指標	歴史的風致維持向上計画事業 進捗状況					
			成果指標の説明	歴史的風致維持向上計画に掲載された個別事業の完了した割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	21	21	46	44	46	63
4	歴史資料の整理・保存・管理 『伊賀市史』編さん資料や、失われゆく歴史資料から地域の歴史と魅力を継承し、将来にわたって活用できるようにするため、資料の収集や整理作業を行うとともに、文書館の設置により公開・保存・管理体制の整備に取り組めます。	○歴史資料保存管理経費 ・旧藤堂藩士家や陶磁器関係の資料の受贈 ・資料調査報告書・目録の作成 ・俳文学会等での講演やテレビ番組製作協力	成果指標	歴史資料 閲覧件数					
			成果指標の説明	歴史資料を収集・整理及び啓発・発信した結果を測る指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	40	66	84	85	73	50

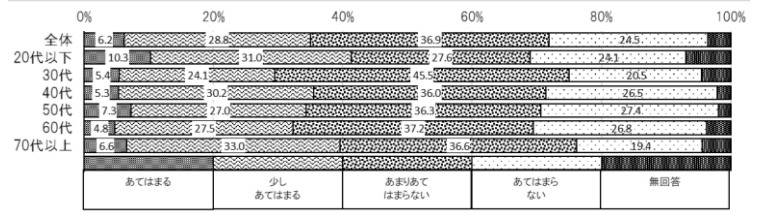
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



傾向
R6の満足度は平均より高いが、参画度は低く、4年間の傾向は、満足度、参画度ともに横ばいである。
満足度は若年層は高いが、年代が高くなるにつれて低くなる。参画度は20代以下と70代以上が高いがそれ以外は低く、特に30代は低い傾向にある。

【CHECK②】

効果検証

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

効果検証		【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○文化財の保存修理事業の推進 ・重文町井家住宅保存修理事業(継続) ・重無民上野天神祭ダンジリ行事棲車幕修理事業(継続) ・重無民勝手神社神事踊保存継承事業(継続) ・県指定観音寺広目天保存修理事業(継続) ・市指定版本法華経保存修理事業(新規) ・市史跡藤堂新七郎家墓所保存整備事業(新規) ○文化財の防災設備の維持管理、修繕事業の実施 ・県指定常住寺間魔堂防災施設修繕事業(新規) ・重文町井家住宅・猪田神社本殿・大村神社宝殿・高倉神社本殿・観音提寺本殿の防災設備保守点検事業(継続)
2	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○文化財の魅力や価値を伝える取組 ・講演会や展示会の開催 ・個別文化財のパフレットの作成 ・SNSの積極的活用 ・市広報に「伊賀市の文化財」の連載 ○文化財の適切な管理と保存整備 ・史跡伊賀国庁跡保存整備事業の推進 ・史跡(御墓山古墳、伊賀国分寺跡、上野城跡)の環境整備
3	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○歴史まちづくりに関する全体的な取組 ・歴史的風致維持向上計画2期計画の策定 ○歴史まちづくりに関する個別の取組 ・ヘリテージマネージャー活動支援事業 ・宿場・街道案内看板等設置整備事業
4	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○寄贈等の資料の活用に向けた取組 ・歴史資料の目録化作業 ○歴史の魅力や資料の価値を伝える取組 ・デジタルアーカイブへの資料掲載 ・実物資料の展示 ・市広報に「伊賀の歴史余話」を連載

伊賀流自治の視点

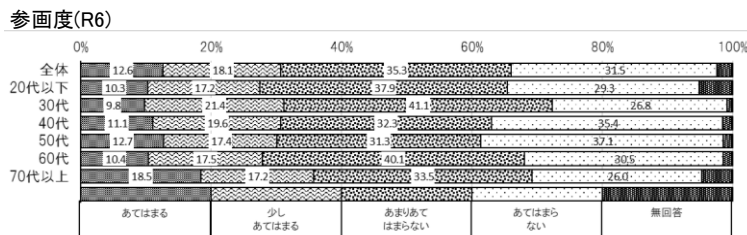
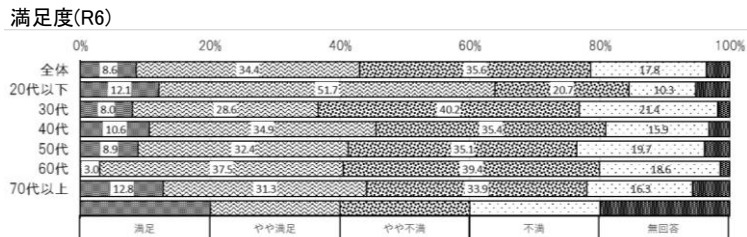
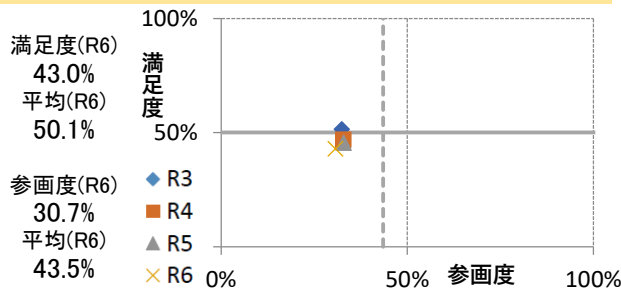
【主担当部局】

地域力創造部

・誰もが時間や場所を問わず、スポーツに親しむ機会の提供に努めるとともに、安心してスポーツを行うことができる環境づくりに努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	スポーツ振興 市民一人ひとりが気軽にスポーツを楽しむ機会を創出するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体の活動を支援します。 スポーツ教室やスポーツイベントの開催を通じ、スポーツに親しみ、その魅力を身近に感じ、それぞれの立場でスポーツ活動に参画する機会の創出につなげます。	○スポーツ活動振興事業 ・スポーツ協会やスポーツ少年団等への活動支援 ・次のスポーツイベントを開催 伊賀市スポーツフェスティバル 9/29、10/13 11種目800人が参加 伊賀上野シティマラソン 11/24 4部門に2,188人がエントリー 伊賀地区駅伝競走大会 1/26に3部門に62チームがエントリー ○スポーツ推進員派遣事業 ・地域スポーツの裾野を広げるため、地域で開催されるレクリエーション行事等にスポーツ推進員を指導者として派遣(24地域・団体)	成果指標	スポーツ活動実施率					
			成果指標の説明	まちづくりアンケートの中で、週1回以上のスポーツを実施している割合(R6よりスポーツ振興課独自に行っている「運動・スポーツに関するアンケート」結果を採用している)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	28.8	53.6	12.2	13.8	41.4	43.2
2	スポーツ施設再編・維持管理 スポーツ施設再編・整備計画に基づき、全市的な視点で類似施設の統廃合や機能分担を行い、安全で利用しやすいスポーツ施設の整備、修繕、改修を計画的に行います。 施設をいつでも気軽に利用できるよう、インターネットによる空き情報の検索・利用予約サービスの導入について検討します。	○体育施設整備事業 ・スポーツ施設の長寿命化改修等 阿山B&G・阿山第1グラウンドトイレ電源工事 大山田B&G体育館間仕切りロープ修繕工事 バラ・障がい者スポーツ実施環境の構築支援事業(ボッチャ、SSピンポン、カローリング) ○体育施設維持管理事業 ・指定管理者委託料 ・施設維持管理修繕	成果指標	スポーツ施設 稼働率					
			成果指標の説明	各スポーツ施設(プール、艇庫は除く。)の稼働率(利用のあった日/365日)の合計を施設数で除した数(平均稼働率)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	45.96	41.22	49.50	49.74	51.32	55.15
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度は、全体としてR5より2.6%の微減となったが、20代以下の満足度が、R5の57.6%からR6の63.8%へ6.2%上がっている。
- ・参画度は、全体としてR5より2.2%の微減となった。特に20代以下の参画度が、R5の42.3%からR6の27.5%へ14.8%下がる結果となった。

【CHECK②】			【事業の進捗】取り組み状況
効果検証			【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	・スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型スポーツクラブへの育成支援を行った。 ・「伊賀上野シティマラソン」、「伊賀地区駅伝競走大会」、「市民スポーツフェスティバル」等のスポーツイベントを開催し、スポーツを通じた健康づくりや交流機会の醸成を行った。	計画通り進めている
	課題	・スポーツや運動離れが進み、スポーツイベントへの参加者数は減少傾向にある。 ・情報提供において更なる発信や新たな方法を検討する必要がある。 ・参加する子どもたちの減少傾向と総合型地域スポーツクラブの会員の高齢化等により、組織の存続が厳しい状況である。 ・団体や実行委員会が主体的に事業を運営できるように、組織の強化や運営方法の見直しを行う必要がある。 ・トップチーム（伊賀FCくの一）を身近に感じてもらう、地域の資源として捉え、地域の活性化につなげていく必要がある。	○新規事業案 ・伊賀市・伊賀FC くの一三重ホームタウン包括連携協定締結サッカーを通じたスポーツ振興や健康増進、子どもの健全育成の推進 ○既存事業案 ・各種イベントについて、健康づくりに加え、交流機会や観光など新しい価値観も付加し、交流人口を増やす工夫を凝らす。 ・広報いが連載コラム「スポーツのチカラ」、SNSなどでの発信を行う。 ・スポーツ団体の主体的な運営についての検討を行う。 ・子ども、高齢者、障がいのある人も含め、全ての市民へのスポーツ機会の充実と環境づくりに努める。 ・スポーツ推進委員を地域や企業へ派遣し、誰もが楽しめるレクリエーションスポーツ等の普及に努める。 ・総合型地域スポーツクラブなどスポーツ団体との連携を図り、学校の運動部活動の地域移行に協力する。
2	効果が出ている点	・施設維持管理コスト削減のため「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」に基づき、老朽化が進み利用率の低い施設の廃止に向けた協議を地域などの関係者で行い、本年度は、大山田東体育館・グラウンドを廃止した。 ・アーバンスポーツについて、施設整備を含めた今後の展開を検討するため、しらさぎ運動公園駐車場の一角を区切った実証実験会場を開設した。	やや遅れている
	課題	・スポーツを安心して気軽に楽しみ、快適に観戦できる環境づくりが必要。 ・スポーツによる交流人口の拡大に向けて、誰もが使いやすい施設整備が求められる。 ・今後のアーバンスポーツの普及についての方向性を検証する必要がある。 ・学校施設以外の施設予約に関して、利用者目線に立った利用環境の整備が必要。	○新規事業案 ・学校開放学業で運用を開始したシステムの稼働状況を検証し、今後、DX計画に基づく施設予約システムの検討を行う。 ○既存事業案 ・各施設の長寿命化改修工事や、維持管理工事を継続して実施する。 ・利用状況の低い施設（ゲートボール場等）について、関係団体や地元と協議しながら、今後のあり方等の検討を行う。 ・類似施設の集約化（テニスコート等）についての検討を行う。 ・学校体育施設開放に係る使用料について、関係部局と検討を行う。
3			
4			

伊賀流自治の視点

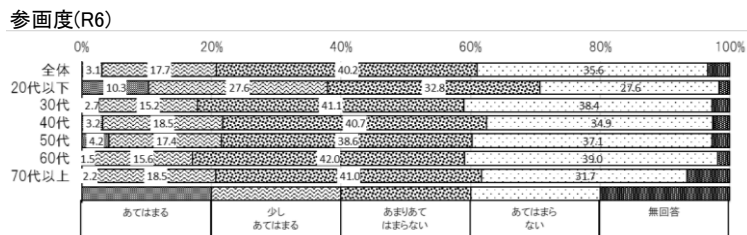
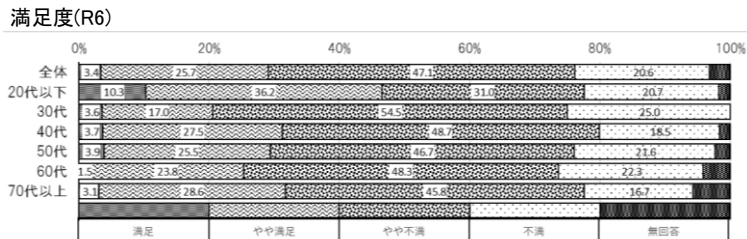
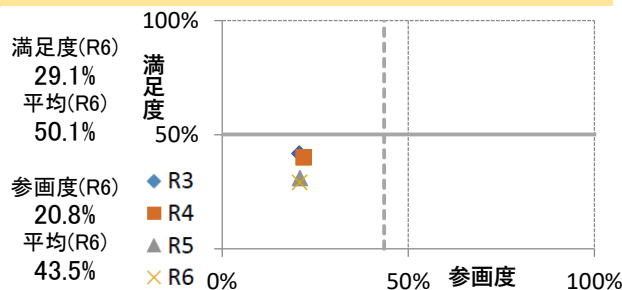
【主担当部局】

地域力創造部

- ・学校等と連携し、若者のシビックプライドを醸成します。
- ・あらゆる主体がまちづくりへ積極的に参画できる機会を創出します。
- ・全国に向けて伊賀市の魅力や住みやすさをPRするとともに移住希望者へのきめ細かいサポートを行います。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	魅力発信 大学等と連携し「忍者」に関する市民講座を開催することで、市民のシビックプライドの醸成と市外における認知度向上とファン獲得に努めます。また、ふるさと納税などを通じて、官民が一体となって伊賀市の特産品や地域資源をPRし、販路拡大や関係人口の創出に取り組みます。	○シティプロモーション推進事業 ・ふるさと納税の推進(個人版・企業版) ・関係人口の創出・拡大	成果指標	ふるさと納税人数					
			成果指標の説明	伊賀市にふるさと納税をした年間延べ人数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	6,791	18,348	16,039	15,161	22,175	12,000
2	地域人材育成 大学等と連携し、小・中学校における郷土教育、市内高校と連携したキャリア教育により、地域を知り、地域との関わりを持ち続け、地域に貢献する人材を育成し、将来的なUターンや定住につなげます。また、若者がまちづくりに参画しやすい環境を整備し、教育機関や企業等と連携し、次代の主役となる人材の育成と地域の活性化を図ります。	○地方創生推進事業 ・若者会議の推進 ・IGABITO育成(高校連携) ・三重大学伊賀連携フィールド事業の推進及び改善	成果指標	20～30代の年間転入超過数					
			成果指標の説明	住民基本台帳における4月1日から翌年3月31日までの20歳から39歳までの転入者数と転出者数の差					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	▲9	▲456	▲63	▲88	▲149	50
3	移住・交流 移住コンシェルジュによるワンストップ相談窓口のほか、東京、大阪等での移住相談会や移住プロモーションを実施するとともに、移住後も移住者同士の交流や地域との連携等、さまざまなつながりや活動のフォローを行い、伊賀市への移住促進に取り組みます。地域おこし協力隊を配置し、地域課題の解決や地域活性化の取り組みのサポートを行います。また、地域に根ざした活動を行うなかで将来的な隊員の定住をめざします。	○移住・交流推進事業 移住定住推進 ・おためし移住施設登録制度の推進 ・おためし移住施設利用促進助成金の推進 ・移住コンシェルジュによるワンストップ相談 ・若者定住のための奨学金等返還支援事業の推進 ・SNS(Instagram)を活用した情報発信 ・体験型移住セミナーの開催 ・地域おこし協力隊確保に向けた推進	成果指標	相談を通じた移住者数					
			成果指標の説明	移住コンシェルジュによる相談を通じた移住者の人数。計画期間の累計人数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(人)	88	422	510	608	698	362
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(人)						

まちづくりアンケート調査結果



- 傾向
- ・満足度、参画度ともに低い傾向にある。
 - ・参画度は横ばい状況だが、満足度は減少している。
 - ・20代以下の満足度が高い。

【CHECK②】

効果検証			【事業の進捗】取り組み状況
			【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	・個人版ふるさと納税の寄附申し込みサイトの追加により、寄附件数及び寄附金額の実績が前年比で1.4割程度増加した。 ・企業版ふるさと納税ではPRパンフレット等の配布の効果により新規の企業からの寄附申し込みがあった。	計画通り進めている ○既存事業案 ・年間を通して計画的にPRを行い、企業版ふるさと納税の確保に向けて更なる推進を図る。
	課題	・本市が抱える地域課題、行政課題の解決に向け、関係者が連携した継続的な取組が必要となる。	
2	効果が出ている点	・伊賀市若者会議の運営委員会が自ら企画する動きもみられるようになった。 ・高校連携事業では、各高校がそれぞれの特色を生かした人材育成プログラムを考え実践している。	計画通り進めている ○既存事業案 ・若者会議と各高校との連携を深め、高校→若者会議へ繋がるための支援を行う。 ・若者会議運営メンバーと協議を行い、参加しやすいイベントの企画を行うとともに新たなメンバー募集を積極的に行う。 ・IGABITO育成事業補助金(高校連携)の対象を市内の県立高校から私立も含めた伊賀管内の高校に対象を拡大し、将来を担う人材育成を行う。
	課題	〈地方創生推進〉 ・伊賀市が持続可能なまちであり続けるために、取り組むべき課題を設定し実行できる人材を増加させる必要がある。 〈伊賀市若者会議・高校連携〉 ・若者会議の活動参加者が固定化しつつある。	
3	効果が出ている点	・移住コンシェルジュが移住から定住にかけて寄り添う相談体制を構築し、移住希望者の希望に沿った案内である「ぐるっと伊賀巡り」や移住相談などに関してきめ細やかな対応を行っていること、また移住相談会や移住プロモーションを行うことにより、移住者の獲得に繋がっている。	計画通り進めている ○新規事業案 若者世帯や子育て世帯の移住者を確保するための新たな制度の開始 ・若者・子育て世帯移住促進中古住宅取得費補助制度 ・若者・子育て世帯移住促進家賃支援補助制度 ○既存事業案 ・若者移住のための奨学金等返還支援制度の周知啓発を行う。 ・地域おこし協力隊の起業支援、新規募集を行うとともに、現在活用している隊員の取り組みや成果を庁内に周知し、活用拡大に繋げる。 ・おためし移住の支援について制度内容の見直し、利用者の増加を図る。
	課題	〈移住〉 ・総人口が減少する中で伊賀市への移住促進を図るのは厳しい状況にあるため、伊賀市が移住先となるため他に先駆けたプロモーションや移住施策に取り組む必要がある。特に、若者世帯や子育て世帯をターゲットとした移住施策が必要。またUターン希望者へ情報が届く仕組みの構築が必要。 〈地域おこし協力隊〉 ・地域おこし協力隊の活用を希望する団体の掘り起こしが必要。 ・地域おこし協力隊の有効活用また、隊員の定住に繋がっていない。	
4			